

成願寺

季報

140

令和6年6月18日
(2024年)

目次

「瑩山禪師の教えと誓願について③」山口正章……………	1
日本オマーン学生交流会開催の報告……………	6
能登半島地震被災地支援の報告……………	6
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

連載第三回 七百回大遠忌を迎えた大本山總持寺御開山

瑩山禪師の『瑩山清規』について

福井県龍泉寺住職 山口正章

はじめに、本年元日に突如起こった能登半島地震で犠牲となられた方々のご冥福を祈念し、被災された皆様さまにお見舞い申し上げます。福井に住む私のところも大きく揺れましたが、大事には至りませんでした。地震発生から約半年が経ち、徐々に復旧作業が進んでいます。石川と富山の皆さまは今も大変な生活を強いられています。どうか一日も早い安寧の日々を取り戻せますよう、お祈り申し上げます。千年に一度といえますから、おそらく瑩山禪師も経験されなかった規模の大地震でしょう。七百回大遠忌の年に悲惨な震災が起きてしまい、とても悲しくてたまりません。

前号は当時の瑩山禪師と修行僧たちが、朝起きて

から夜寝るまでの一日を、どのように過ごしていたかを紹介しました。その内容は、禪師が最晩年に著された『瑩山清規』に基づいたものです。今回はその『瑩山清規』（以下、瑩規とも称します）をご紹介します

◎盂蘭盆会先祖まつりのお知らせ

七月十一日（木）

十時半 受付始まり

十二時半 開山・歴住諸大和尚追善供養

十三時 説教 石川県永光寺住職 屋敷智乗老師

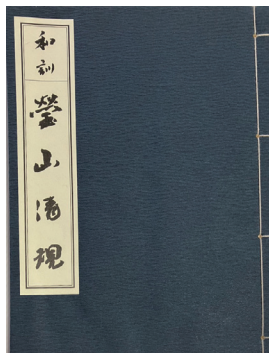
十四時 先祖まつり法要・檀信徒総回向

*お盆期間中（十三日～十五日）、檀信徒各家にてお勤めする柵経に伺います。担当僧侶よりご連絡を差し上げます。新たにご希望の方は、寺務所へお申し出ください。

檀信徒の皆様へ 万が一ご不幸があった際のお願ひ
葬儀の導師を勤める住職の体力を鑑み、式はできる限り成願寺にて執り行うようお願いしています。
まずは、ご相談ください。

いたします。

先ず「清規」とは聞きなれない言葉ですが、「清浄大海衆規矩準繩」の略称で、宗教生活のきまりを教えるものであり、修行道場に於ける僧の守るべき具体的な規則・戒律を指すものです。古くは中国、唐の時代に百丈懷海禪師の『百丈清規』が最初といわれ、



大本山總持寺にて制作された「和訓『瑩山清規』」。題字は總持寺二十四世大道晃仙禪師の揮毫（上）。「齋時」の所作進退が示された部分（左）。具体的な作法が示されている。

日本にもいくつかの清規が編まれました。

曹洞宗でもいくつか清規ができ、『瑩山清規』と道元禪師の『永平清規』が二大清規とされています。

檀信徒の皆さんは、總持寺や永平寺など僧堂で修行する僧の所作進退を見て、そこに洗練された美しさがあることを感じられたことはありませんか。それはとりもなおさず、清規の示すところに従って身体と心を精進錬磨している成果といえましょう。

実は、清規は曹洞宗の檀信徒のみならず、広く日本人の生活や文化など、各方面に深い影響を及ぼしているのです。それはいわゆる「禅文化」「仏教文化」などと称され、私たちの衣食住など生活全般に、無意識のうちに刷り込まれているのです。

さて、『瑩山清規』という書名は通称でありまして正式には『能州洞谷山永光禪寺行事次序』、略して『洞谷清規』といえます。その名のとおり、洞谷山永光寺（石川県羽咋市）で編まれました。

後に江戸時代になって加賀大乗寺（石川県金沢市）の舟舟禪師と中山禪師が『瑩山和尚清規』という題名で開版（出

午の時。齋時なり。火鉢の邊寺ののち、庫前の鼓三下して、齋時を報するなり。次に、大鐘を鳴らすこと十八声、これを齋鐘と称す。この間、大殿について尊勝陀羅尼を誦すること七遍、これを日中と云う。飄經おわりてのち、大衆、入堂す。庫前の版長打三十六すれば、庫前の台盤に供物を并じ、僧堂を望んで、典座、焼香九拜す。拜のあいだ、誦行、兩行に立ち列ぶ。拜おわりてのち、供物を僧堂前に送り奉つる。仏聖の供物、同じく諸尊に供するなり。殿主、仏供を供す。薫香供養して、おのおの礼すること三拜す。土地前に、ただ焼香するのみ。三十六版および魚鼓のあいだ、堂内、堂外の諸衆、堂外に集来して、諸衆兩班、おのおの聖僧を望んで、問訊し、着座す。魚鼓第三会の初め、首座入堂し、聖僧を問訊して著座す。前門の南頬より入るなり。魚鼓ののち、雲版、長打すること一会すれば、大衆、鉢を下す。次に、庫前の雲鼓三会す。第三会に、堂前の小鐘あわせ鳴らす。主人の入堂を報するなり。堂内、堂外の大衆、一時に床を下りて、主人を接揖して問訊す。主人、当面に問訊

版)し流布させて以来、曹洞宗の行事法要・典礼の範型となりました。瑩規の内容は、『永平清規』を基準に据えながら作られております。両者を比較しますと、『永平清規』は「精神的・個人的・出世間的」であるのに対し、瑩規は「現実的(形式的)・集団的・対世間的」であるといえます。内題として、

一 州 山 寺行事次第

と書かれ、空欄にそれぞれの所在地・山号・寺名を書き込めるようにしてあります。

例えば成願寺様ですと、「武州多宝山成願寺行事次第」と書き込んで使用しました。つまり弟子たちが全国各地へ教えを広めていく際に携行し、実際に使用するように整えられております。

瑩規は總持寺・永光寺系統の寺院だけではなく、福井の大本山永平寺に於いても『曹洞宗年中行規並毎月勤行之次第』と改題して用いられておりました。

このようにケースバイケースに内題を書き込むことよって、瑩規の写本が各地へ伝播していききました。それはとりもなおさず、瑩山禪師の教えと瑩規に基づいた行事が全国へ普及していったことを意味します。

瑩規の構成は「年中行事」「日中行事」「月分行事」と「回向」で成り立っています。仏祖への報恩とともに檀信徒のために祈禱や供養を行うなど、現実的な幸せを祈願する行事が示されているのが特長といえます。仏祖や祖先に感謝し、あらゆる人々の幸せを祈りながら、すべてのもののために精進することが、瑩規のコンセプトといえます。

今日の曹洞宗では、『行持軌範』という指南書に基づいて法要や行持、回向文を行っておりますが、そのほとんどは『瑩山清規』の内容を引き継いだものです。具体的には、私たちに身近な「暁天坐禅」や「朝課・日中・晚課の三時諷経」、「施食会」、「大般若会」、「楞嚴会」などです。

鎌倉時代に永光寺や總持寺で実践されていた瑩山禪師の仏道が、七百年以上経った現在も、私たちに脈々と受け継がれ実践されているのです。

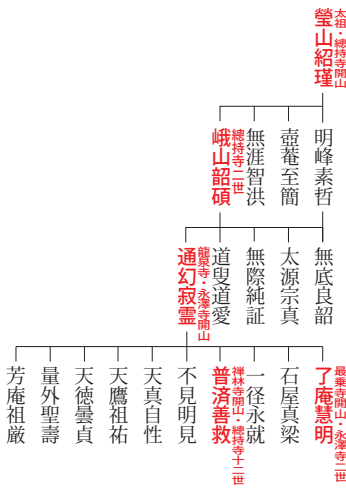
焼け跡から最古の『瑩山清規』写本を発見

今から四十年近く前の、昭和六十三年(一九八八)三月十六日、真夜中の一時頃でありました。突然電話が鳴り響き、「こんな真夜中に」と恐る恐る受話器を取ると、新聞社からでした。電話の内容は、「数時

間前に福井市の禅林寺が火災で焼失してしまった」との報告と、「お寺について知っていることを教えて欲しい」というものでした。また焼け跡から遺体がひとり見つかったとも。「もしや方丈さまでは、いや、確か入院加療中でご不在のはずだ」などなど思いながら悶々と世の明けるのを待ちました。

禅林寺は龍泉寺の門末寺にて、ご開山は普濟善救禅師です。普濟禅師は通幻禅師の弟子であり、龍泉寺の第四世住職。また大本山總持寺の第十二世住職にもなられた大禅匠です。法脈は図のように相承し、瑩山禅師の曾孫弟子になります。ちなみに成願寺ご開山川庵宗鼎大和尚は、普濟禅師の兄弟弟子、了庵慧明禅師（小田原最乗寺開山）の法脈に連なります。

瑩山禅師から連なる法脈



普濟禅師は加賀の富樫氏の出身で、龍泉寺の他に總持寺や永光寺、永澤寺の輪番住職を歴任されるなど、初期曹洞宗教団の総帥として活躍し、晩年に師匠のお墓を見護るべく、龍泉寺近隣に禅林寺を開創し同寺で亡くなりました。世寿六十二歳でした。

その語録『禅林普濟禅師語録』三巻」と『普濟善救和尚法語』は、格調高く詩藻豊かな文言で綴られ、現在に到るまで高い評価を得ております。

話を戻して、火災翌朝の新聞には「プロパンガスの爆発で一瞬にして寺全体が火の海となり、歸寺中の住職が避難する間もなく痛ましい結果になった」と大きく報じておりました。

早速禅林寺に駆け付けてみますと、未だ煙のくすぶっている焼け跡を目の当たりにして、ただ茫然と立ちすくむのみでした。そして方丈さまの遺体が安置されているお檀家宅へ行き、読経した後、裏山のご開山普濟禅師のお墓に参りました。

数百年間ずっとお寺を見護り続けてきたご開山さまは、眼下の焼け落ちた境内を無言で見つめておりました。その帰りでした。本堂脇を過ぎた辺りで、足元に木箱のようなものがコッソソと当たりました。

何かと思ひ拾い上げてみれば、箱の表面は焦げて

真つ黒でしたが、中には金襴の袱紗に包まれてほとんど焼けていない和綴じの古本二巻が納められて、表紙に「禅林寺開山普濟大和尚真筆」と墨書されておりました。これが後の調査で、瑩山禪師が亡くなられてから僅か五十一年後に書写された最古の『瑩山清規』写本であると判明したものでした。

それにしても一瞬にして寺全体が火炎に包まれ、ご本尊やご開山像など全てが灰燼に帰した中で『瑩山清規』のみが奇跡的にほぼ無傷で残され、それを発見し拾い上げたことには、不思議な因縁を感じずにはいられませんでした。

瑩山禪師の典籍との巡り逢い

新しいものより古いものを好む私は、若い頃より宗門の古文書や典籍、祖師方の墨蹟を蒐集してきました。その中で、瑩山禪師に関する典籍を三度発見する仏縁に恵まれました。

先ず、住職になって間もない昭和五十九年に自坊の蔵から『伝光録』写本四巻を見つけました（前号で写真を掲載）。次に先述の如く、昭和六十三年に禅林寺の焼け跡から最古の『瑩山清規』写本二巻を発見いたしました。三度目は平成十二年に北海道札幌

市に在るアイヌ民俗学専門古書店で『十種疑問』の写本一卷（江戸時代）を見つけ、買い求めたことです。『十種疑問』は、嘗て存在したとされる瑩山禪師真筆の草稿が現在には所在不明にて、四本の写本のみ伝わっておりましたが、五本目が出現したことになりました。

『十種疑問』は、後醍醐天皇（一二八八～一三三九）が孤峰覚明師（鎌倉時代末期の臨濟宗の僧）の仲介によって瑩山禪師へ仏法や禅に関する十の疑問を書面で問われ、瑩山禪師が明快に答えられた問答集であります。瑩山禪師の滋味あふれる答えに満足された後醍醐天皇は、總持寺に対して綸旨（天皇の出す公文書）を出し、出世道場（一宗の本山）とされました。

実は『十種疑問』は、その真偽について学者の見分かれております。しかし問答内容は普遍的かつ現代に通ずるものであり、学ぶべきことが多く示されています。

このように『伝光録』と『瑩山清規』と『十種疑問』の新出写本に巡り逢うという法縁に恵まれました。まさに時空を超えて瑩山禪師と重々無礙の尊い宿縁を賜ったものと承当し、心より感謝感激をして

おります。

次回最終稿では、『十種疑問』や『洞谷記』の内容を一部紹介し、二十一世紀を生きる私たちが瑩山禪師の御教えに学び、心豊かな社会を築くためにどう行動していくかを、ともに考えたいと存じます。

話の後半が私事にわたってしまい恐縮ですが、この機会に披露させて頂きました。

合掌

◎日本オマーン学生交流会開催の報告

中東の親日国家としても知られるオマーン。当山は諸外国との友好・親善にも力を入れていて、特に日本で暮らすオマーン人、留学生との交流は十年以



交流会の様子



薄茶をいただくオマーン留学生

上に及びます。昨年十一月十八日、日本オマーンクラブ主催で日オ学生交流会が四年ぶりに当山にて開催されました。留学生と日本人学生の若い世代の交流は、互いの文化の違いを認識して理解を深め、意見の交換も活発に行われました。

当山にて行われている茶道教室「ひさこの会」(裏千家准教授巖宗鶴先生)のお社中による茶道体験では、オマーン留学生、日本人学生共にはじめての経験という方が多く、興味深い様子でお点前を拝見し、薄茶を一服いただきました。翌朝は早朝坐禅を体験して、当山での行程を終えました。

◎能登半島地震被災地支援の報告



支援物資を積み込む小野師と副住職

当山の夏の行事に長年ご随喜いただいている宮城県広最寺住職の小野大龍師は、東日本大地震で被災した経験を持ち、以降被災地支援のボランティア活動を続けられています。去る五月十四日より、能登半島地震で甚大な被害に遭われた



被災した總持寺祖院。奥に見えるのが仏殿



雨漏り対策で畳を上げている様子（祖院）



半壊した家屋で道路が半分塞がれたまま（珠洲市）



「つばき保育園」に物資を届けた小野師
（写真はいずれも5月15日撮影）

珠洲市（住家被害八一九七棟、非住家被害四二一九一棟。四月二日までの県のまとめ）のつばき保育園（加護清美園長）と、輪島市門前町の大本山總持寺祖院に支援物資を届けるため、物資を満載したワゴン車にて出発。当山は、静岡県冷泉寺様、他の皆様と共に小野師の活動に賛同し、飲料水や菓子、義援金などを師に託して活動の一助としていただきました。

珠洲市は断水がいたる所で起き、珠洲市内にある三園の保育園も同様に被害に遭われましたが、つばき保育園に三園が集まり、合同で預かり保育を行っているそうです。

大本山總持寺祖院は、平成十九年の大地震の際も甚大な被害に遭い、長期に亘る工事を経て令和三年に落慶法要を挙行したばかりで、前回の地震を大きく上回る被害に遭われました。修行道場としての機能を失い、水道が使えないなか、伽藍が文化財に指定を受けていることで応急処置もできずに苦労をされています。全伽藍雨漏りがひどく、その対応に追われているとのこと。

クラウドファンディングが行われています（詳細は祖院公式サイトを参照）。また当山に於いても祖院への義援金をお預かりします。

山内短信



◎古卒塔婆の納所を新設

境内墓地の入り口に、古くなった卒塔婆の納所を新設しました。各家にて、墓所の古くなった卒塔婆は納所まで下げていただきますようお願いいたします。

*卒塔婆とは：サンスクリット（古いインドの言葉）の「ストウパー」（塔）のこと。元々は仏舍利（釈尊の遺骨）を安置した塔でしたが、中国、日本へと伝わるうちに三重の塔、五重の塔、五輪の塔へと姿を変えました。卒塔婆は五輪の塔が簡略化されたもので、上部は万物を構成する「五大（地・水・火・風・空）」を表しています。卒塔婆の功德を故人やご先祖様に廻らせて、追善供養をさせていただくのです。

◎中野本郷小スクールバス山門前に停車のお知らせ

中野区立中野本郷小学校（本町四丁目）は今年度より校舎建て替えのため、旧向台小学校（弥生町一丁目）を代替校舎として運営しています。

それに伴い区教育委員会は、遠方の児童に対し、

スクールバス（大型観光バスを使用）の運行を行っています。登校時は八時十五分ごろ、当山山門前に停車し児童が降車。下校時は曜日により異なりますが、午後二時十五分から三時半の間に二便、土曜は十一時四十五分に一便それぞれ山門前から出発します。区教育委員会が配置する警備員より誘導等がありますが、ご来山の際はお気をつけいただき、子どもたちの通学の安全のため、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

◎小林堯成 両大本山へ瑞世拝登の報告

住職の孫・小林堯成が、僧侶としての重要な節目となる瑞世拝登を大本山總持寺（三月十四日）、大本山永平寺（四月十日）にて修行させていただきました。

瑞世とは、両本山に拝登し、朝の法要の導師を勤



記念写真（大本山總持寺）

めさせていたたくもので、これにより「和尚」の法階が認められ、黒衣から色衣に転じる（転衣）ことが許されました。